

本校スクールカウンセラー志村祐二先生による  
「新型コロナウイルス感染症から生まれる差別・偏見を  
なくすために自分ができること」  
を考える授業をおこないました。

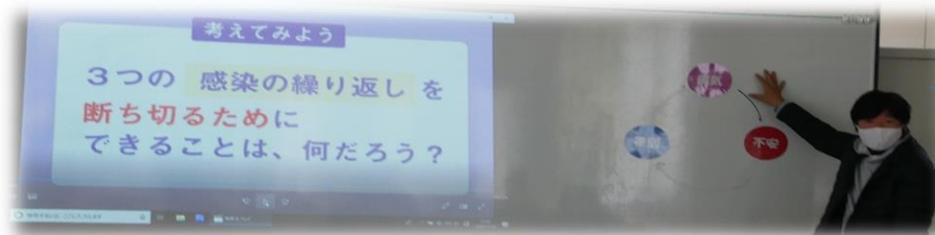
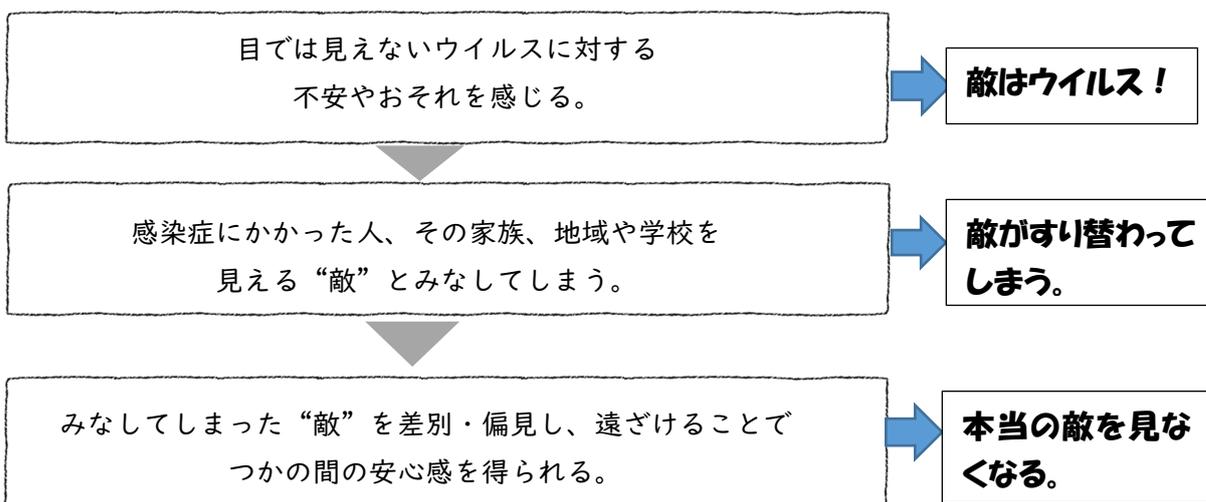
新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、感染症に対する不安や感染症などへの差別・偏見などが社会問題となっています。学校でも、感染予防対策を続けていますが、新型コロナウイルス感染症は誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な人が感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきています。

そこで今回、本校のスクールカウンセラーである志村祐二先生を講師に、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの”感染症”」の考え方のもと、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見について考える道徳の授業を、全校生徒を対象に実施いたしました。



### 感染症から差別や偏見が生まれる理由

人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすり替えます。感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別や偏見」につながっています。



正しく恐れることが大切

## 授業を受けた生徒の声

- ・身近な人が感染してしまっても、責めないでやさしく声をかけてあげる。
- ・具合が悪い人がいたら、言い出しやすい空気をつくるのが大切だと思いました。
- ・新型コロナウイルスは、病気の感染だけでなく、不安や差別という感染をもたらすということがわかった。これからも対策をしっかりして、かからないようにしたい。
- ・誰かを敵にしないで、ウイルスが敵ということ認識する。
- ・不安な人がいたら、相談にのってあげて、気持ちを楽にさせてあげる。相手の気持ちをしっかり考え、理解する。感染症対策をしっかり行って、早く平和な生活に戻れるようになりたいです。
- ・今までコロナに対して不安な気持ちがあったけど、不安を和らげる方法もあったので、これから不安なことがあったら、和らげる方法を参考にしてみたいです。
- ・自分が感染した時に、広めないように、不安など考えずに病院に行く。

新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。たたくべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で、不安な気持ちを乗り越えましょう。和らげる方法として、不安な気持ちを言語化してみましょう。そして不安な気持ちから距離を取る方法のひとつとして、深い呼吸法（10秒間呼吸法）を5回ほど繰り返してみましょう。



## 私たちが出来ること、それは・・・



- ・不確かな情報を拡散しないこと
- ・差別的な言動に同調しないこと
- ・不安をおおることはしないこと



**Do your part**

すべてのひとが、それぞれの立場で出来ることをしていこう！！